

令和 元 年 度 埼 玉 県 農 業 大 学 校 評 価 シ ス テ ム シ ー ト

教 育 方 針	1 農業経営に必要な技術と知識を備えた実践力のある人材の育成 2 グローバルな視点と企業的経営感覚を身につけた人材の育成 3 地域の農業をけん引するリーダーの育成
---------	---

教 育 方 法	1 課題解決型学習を基軸として実践教育を行う 2 講義、実習、農家研修を効果的に組み合わせて各人の能力に応じた教育を行う。 3 農業法人経営者、流通販売企業家など第一線の外部講師を活用する。 4 農業経営者育成のためのカリキュラムを編成し必要な免許・資格取得を進める。
---------	---

重 点 目 標	1 入学予定者の定員確保 2 次代を創造する農業者の育成 3 学習・生活環境の確保 4 生徒の意向を踏まえた進路指導
---------	---

達 成 度	A	達成(100%以上)
	B	概ね達成(80~99%以上)
	C	不十分(80%未満)

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (3 月 4 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 4 日 現 在)		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
1	【現状】 高い農業技術や経営感覚を身に付ける指導を実践している教育機関として、高校や地域社会における認知度が低い。 【課題】 本校の教育活動について、積極的にPRするとともに、新しい入試制度の周知を図る。	入学定員90名の確保	①高校訪問の実施 ・延べ200校の訪問 ・隣接1都5県の訪問 ②入学説明会の実施 ・年4日間、8回 ③高校進路指導担当者対象入試説明会の実施 ④県内農業関係高校宿泊実習の実施 ・1泊2日 ⑤地域及び関係機関との連携 ・各種イベントへの参加 ・農林振興センターとの情報交換	①農業関係高校以外の高校へもアプローチできたか。 ②入学定員を上回る受験希望者の参加があったか。 ③計画どおり実施できたか。 ④受験希望者の増加につながったか。 ⑤現役高校生以外へも積極的な情報発信ができたか。	入学定員90名(合格者94名)を確保できた。 ①県内184校、隣接県37校の合計221校の高校訪問し、県内全高校及び都内農業関係高校計270校に受験案内を配布した。 ②219名の参加があった。 ③計画どおり実施した。 ④宿泊実習参加者の中で、受験資格を有する者14名中8名が入学予定。 ⑤各種イベントでPRするとともに、4年制大学18校を訪問した。	A	【課題】 入学定員の確保 【改善策】 高校訪問及び大学・社会人への情報提供について、工夫・改善に取り組む。
2	【現状】 高度な農業経営の実践者を育成するために、経営力や技術力の習得を図る教育水準の向上が求められている。 【課題】 先端技術の導入や環境への配慮等時代の変化に対応した農業技術を導入するとともに、先進的な農業体験活動を展開する。	①栽培施設に導入した先端技術装置を活用した授業の実践	①栽培施設に導入した炭酸ガス発生装置の維持管理 ②生徒に対してデータ計測・分析方法の指導や先端的技術活用全般に関する講義の実施	①炭酸ガス発生装置の活用による栽培管理の成果があったか。 ②データ計測・分析方法の指導や先端的技術活用全般に関する講義が実施できたか。	先端技術装置を活用した授業が実践できた。 ①収量約5%の増加となった。 ②外部講師環境制御の授業を5回、環境制御校外学習を1回行った。	A	【課題】 導入した先端技術を活用した授業の充実。 【解決策】 民間企業との連携を強める。
		②先進的農業体験活動の実施	①新規就農希望者支援 ・チャレンジファーム及びチャレンジカンパニーの実施 ②先進農家体験活動(58日間)の実施 ③農業認証取得のノウハウを生かした農業実習 ・G-GAP ・埼玉県優良生産管理農場 ・有機JAS認定	①チャレンジファーム及びチャレンジカンパニーが計画どおり実践できたか。 ②先進農家体験活動が実施できたか。 ③認証基準に沿った農業実習ができたか。	先進的農業体験活動を実践することができた。 ①計画どおり実践した。特に、大学校祭では民間企業と連携して開発製造したプリンを700個販売した。 ②43名が58日間の学習日程を完了。受入農家からは、概ね良好との評価を受けた。 ③認証基準に沿った農業実習を行うことができた。継続して有機JAS認証を受けた。	B	【課題】 考えて実践できる生徒の育成 【解決策】 先進的農業体験活動の必要性及び重要性を生徒に徹底的に指導する。
3	【現状】 施設や設備など、生徒が実習や学習に取り組む環境の整備は着実に進んでいる。 【課題】 農作業や農業実験を行うにあたり、扱いや操作を間違えると大きな事故につながる器具や装置、機械があり、生徒が安心安全に学習に取り組む環境を維持する。	農作業実習中の事故ゼロ	①安全指導の徹底 ・職員研修会の実施 ・実験実習における指導 ②日常的な施設・設備の点検 ・農業機械の点検・整備 ・販売実習棟及び実習施設の適正な管理	①実験・実習時に安全指導が行われたか。 ②施設・設備の点検・整備が行われたか。	農作業実習中の事故をゼロに抑えることができた。 ①実験・実習時における事故はゼロであった。 ②農業機械を点検・整備するとともに、販売実習棟及び実習施設を適切に管理し、施設・設備の瑕疵による事故は無かった。	A	【課題】 農作業実習中の事故ゼロ 【解決策】 農作業に慣れていない生徒に対し、きめ細やかな指導を行う。
4	【現状】 農業自営を土台とした教育活動を展開してきた中で、近年、農業生産法人や関連産業への就職希望者が増加している。 【課題】 非農家出身者の進路(就職先)を確保するとともに、就農、就職後に必要な農業関連資格を取得させる。	進路決定率100%	①進路指導 ・新たな教育課程(進路希望別コース)の実施 ・キャリアコンサルタントによる指導 ・法人を含む就農支援 ・求人数120件確保 ・農業法人等見学会・説明会(6回) ②資格取得 ・卒業までに農業に関する資格を1つ以上取得させる。	①生徒のニーズに対応した進路指導が行えたか。 ②卒業までに農業に関する資格を1つ以上取得できたか。	進路決定率100%を達成した。 ①新たな教育課程について計画どおり実施した。生徒の満足度は91%であった。 ②農業機械に関する資格取得について、1人平均1.7個の資格を取得することができた。	A	【課題】 進路決定率100% 【解決策】 生徒の進路意識を高める指導を行う。

学 校 関 係 者 評 価	実 施 日 令 和 2 年 3 月 2 4 日
学 校 関 係 者 からの 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等	・入学定員確保について、今後もこの努力を続けられるように望む。 ・学校訪問について、単なる資料提供だけでなく、何らかの工夫が必要である。 ・現役高校生以外への情報発信は非常に良いと思う。入学者が増えれば、農業を別の視点から考える機会にもなる。 ・入学定員の確保について、18歳人口減少の現状から、積極的な企画、行動が必要である。 ・イベント等に出店して学校を周知してもらおうようにする。 ・学校訪問、宿泊実習とも入学定員確保に向けた成果が出ている。 ・今後も続けてもらいたい。 ・今後も先端技術(例えば、夏季における空気の冷却装置など)を取り入れて、生徒達の夢を広げて欲しい。 ・先端技術の学習は、農業への興味・関心を更に高めることができる。 ・成果が十分現れている。 ・今後も続けてもらいたい。 ・入学時には他の農業体験もできる時間を作れるとよい。 ・先進農家研修について、農業の学習だけでなく、人間性育成にとっても重要であり、大きな柱としたい。 ・体験学習で欠席者が出たことは残念であるが、要因を分析し、次に生かしてもらいたい。 ・企業との連携など、企業等をいかに活用するかが課題である。積極的な企業研修は就活にも有効である。 ・今後も続けてもらいたい。 ・作業の安全性などは生活環境なども関係するので、心の置き場を考えてもらえるような生活習慣の指導を望む。 ・日ごろの安全点検・安全指導は極めて重要である。 ・引き続き、安全優先で実習を行って頂きたい。 ・適切な学習環境が提供されている。 ・生徒のニーズに対応した指導が行われている。 ・在学中に取れる資格を取得するよう、その必要性を先輩、農業法人、農家等から指導してもらう。 ・新たな教育課程(進路希望別コース)の具体的な展開(特徴的な科目)などの説明が必要である。 ・大型特殊・けん引については、農耕車限定ではない免許も取得できるとよい。